

ぞくばらん
担う人たち

木製のいすに腰を着けると、思わずふうっと一息つきたくなる。職場に並んだ温かみのある家具や工芸品の数々も、元は廃材。新しい生命を吹き込み、自然の魅力を伝えていく。

七、八年前から本格的に興味で始めた木工クラフト。今では個展を開いたり、草木染や絵手紙を手掛ける同級生らに呼び掛け、創作展を開催。売り上げは自然保護の運動やユニセフ、福祉施設などに寄付している。

自然と「会話」する趣味は、幼少時代からの延長にあった。

自然愛好家

駒田 隆さん

環境守る 責任を胸に



自然の魅力を伝える駒田さん＝小松市内で

「食べるものもない時代に生き、昆虫採集が楽しめるもので、受粉でできた果実や植物は約三割あるうまくてきている。あらとまゆをひそめる。」

「人間の食糧としていける。植物と昆虫の共生は鎖が一つ外れると大変か、どうか。生態系のお、六十億余の力は大きい。少しでも破壊を減らす」という気持ちを持つた人が増えればと思うし、「できることからやりましょ

は今でも変わらない」。昆虫の中でもハチの知識には仲間も舌を巻く。「あぶち取らずでは駄目」と、学生時代から生態や行動を観察、研究してきた。「人間の食糧としていける。植物と昆虫の共生は鎖が一つ外れると大変か、どうか。生態系のお、六十億余の力は大きい。少しでも破壊を減らす」という気持ちを持つた人が増えればと思うし、「できることからやりましょ

豊かな暮らしを求めてつくり出した現代社会。その代償は決して小さくない。「人間が最悪の破壊者。将来を守るのがわれわれの責任。一人の力は小さくても(世界人口の)六十億余の力は大きい。少しでも破壊を減らす」という気持ちを持つた人が増えればと思う。(田嶋豊)

「また、たかし」「こまや」社長。昨年4月、二男晋作さんの帰省を機に小松市大領町にギャラリーを兼ね備えた店を構えた。中学時代にはハチの論文を手掛け、県最優秀賞を獲得。小松市吉竹町在住、64歳。ホームページhttp://e-komaya.jp/